

## 樹勢強化に向けた梨のせん定講習会を実施（世羅町）

【平成 29 年 11 月 16 日掲載】

平成 29 年 10 月 27 日，東部農業技術指導所は，世羅町の（農）世羅幸水農園（組合長理事：原田 修（はらだ おさむ），経営面積 64ha）において，老齡樹の樹勢強化に向けた梨のせん定講習会を実施しました。

同農園は，開園から 50 年以上を経過し，樹勢が弱り枯れる樹が出るなど生産性の低下が問題となっています。これを解決するため，茨城県等で実施されている樹勢強化せん定に 3 年前から取り組み，2 年前から 50ha のなし園全園に導入しました。

このせん定の特徴は①葉数を確保するため，これまで骨格枝 1m あたり 2～3 本だった予備枝を 5 本以上に増加させる。②果実を成らせる側枝の間隔を 40cm から 20～25cm につめて多く配置する。③誘引しにくいためこれまで切除していた発育枝を，のこぎりで割れ目を入れて倒して側枝として利用する，などです。これにより，樹全体の葉数が増加し，樹体への養分供給が増え，結果として樹勢が強くなります。これまでの取り組みで，発生する新梢が増え，枯れる樹が減少するなど，樹勢強化の効果が現れはじめています。また，平易な技術であるため，技術の習得が早く省力化にもつながっています。

講習会当日は，構成員や従業員 40 名以上が参加し，スライドを用いた室内研修ののち，圃場において当所職員が解説をしながらせん定実習を行いました。

残す枝の選び方や，のこぎりで割れ目を入れる位置など，参加者からも積極的な質問がありました。



【圃場での実習指導の様子】